

2024年度 図書館活動報告

年間貸出冊数 (前年 2,189冊)	生徒 職員 他館 総計	2,468冊 821冊 50冊 3,339冊
(前年 742冊)		
(前年 41冊)		
(前年 2,972冊)		
他館借受冊数 (前年 166冊)		126冊
年間受入冊数 (前年 726冊)		938冊
年間除籍冊数 (前年 1,086冊)		1,942冊
年間不明冊数 (前年 4冊)		5冊
予約・リクエスト件数 (前年 22件)		51 (予3 + リ48) 件
授業利用 (前年 74時間)		76時間
蔵書冊数 (2025.3)		20,204冊

＜統計について＞

- 総貸出数：2023年度より増加。
- 本を購入する予算が増え、受入冊数が増加した。
- 予約・リクエスト件数：2023年度より約2倍増加。
- 不明図書を無くすため、図書館資料の利用方法について定期的にアナウンスしていく。

＜広報＞

- 職員向け図書館ポスターを作成し、職員室内に掲示した。
- 毎月、「上高図書館だより」(生徒向け)、「図書館だより」(教職員向け)を発行した。
- 図書館前の廊下に新着図書・雑誌の書影や「空想科学 図書館通信」などを掲示している。
- 蔵書検索ページや朝日新聞 記事検索データベース「朝日けんさくくん」にQRコードからアクセスできるポスターを教室に掲示している。
- 毎月、学年のGoogle Classroomから、新着図書案内や図書館からのお知らせを投稿している。
- 職員室と保健室にて出張図書館を実施した。毎月、本を交換している。

＜授業利用＞

- 3年政治経済、地理探究、日本史探究、家庭科「保育基礎」、2年論理国語、1年総合など、2023年度よりも幅広い教科で図書館の利用があった。
- 司書は図書館の利用方法や調べ方、参考文献の書き方などについて説明をした。
- 1年家庭科基礎、1年生物基礎では図書館資料の提供を行った。

＜館内整備・展示等＞

- 日本の小説を排架している書架を整理し、中段に生徒が作成したPOPを紹介するコーナーを作成した。
- 差し込み表示板を0類から4類まで刷新した。
- 3類 社会科学、6類 産業に関する図書館資料を整理して、閲覧室の3類と6類の書架を拡充した。
- 郷土資料を整理して、生徒が手に取りやすい本を集めてコーナーを作成した。
- 図書館後方に、生徒が直接借りににくい本を集め、貸出手続き不要のコーナーを

作成した。

- 遮光カーテンを閲覧室と書庫に取り付け、本の保存状態が良くなった。
- カウンター前に特集コーナーを設置している。
- 新着コーナーの隣に「今週の10冊」コーナーを設置。週替わりでNDC（日本十進分類法）をもとに0~9類の本を1冊ずつ紹介している。
- 図書館入口にて「今日は何の日？」というテーマで、日替わりで本を展示している。
- 必要に応じて、昼休みと放課後にサイレントルーム（総合学習室）を運営している。

<図書委員会>

- 11月に相模原市立図書館でPOPが展示された。
- 読書会を実施した。①課題本：ヨシタケシンスケ/著『メンとモリ』②アントワーヌ・ド・サン=テグジュペリ/著『あのときの王子くん』③直観読み読書会
- どの書架にどの分類の本があるのか、分かりやすくするために表示板を作成した。
- オススメ本のPOPを作成。月替わりで図書館カウンターにて展示している。
- 図書館にある新聞やデータベースの利用を促すため、生徒が注目しているニュースの新聞記事紹介を行った。成果物は図書館準備室側の廊下に掲示している。
- 「上高マンガ選挙」の運営。放送部と協力し、候補作品の説明や投票の呼びかけをした。
- 2学期期末テスト後に蔵書点検を実施した。
- 上小交流会に2年生が参加し、図書館が所蔵しているボードゲームで小学生と交流した。
- 図書館報「Success」を作成した。

<インターネットを活用したサービスの提供>

- 朝日新聞記事検索データベース「朝日けんさくくん」（有料契約）
- 図書館の蔵書管理システム（カーリルによる学校図書館支援プログラムの活用）
- Googleサイト「上溝高校図書館 調べ学習サイト」

<レファレンス例>

- タイトルは「すべての・・・」からはじまる、女の子が泣いているイラストの表紙の本を探している。
- 恋に落ちる原理、「恋は盲目」と言うが、どうしてそうなるのか知りたい。
- 資料持ち込みOKのテストがあるので、役に立ちそうな資料を探している。
- DVをする人の心理が知りたい。
- 「発達障害」という言葉が書名に入っていない発達障害に関する本を探している。

※そのほか、3年生が小論文対策のための資料や自分の進路の参考になる資料を探す目的で、相談しにくる場合が多い。

※「○○の本はありますか？」「何かおもしろい本ないですか？」などの問い合わせにも日常的に対応。

<図書館運営>

- 10月の職員会議にて上溝高校図書館運営方針を改定した。
- 学校図書館から公共図書館へつなげる。
⇒相模原市立図書館や県立図書館のサービスを紹介する。
- 「いつでも誰でも居ることができる場所が図書館」というアピールをする。
⇒新入生オリエンテーションでの声かけ。図書委員を中心にして、普段は図書館に来ない生徒が図書館に興味を持つ企画を行う。
- 生徒が卒業後、もし困ったときに「図書館へ行って司書に聞けば、必要な情報を集めてくれる。」という意識を持ってもらえるよう、積極的に「司書は調べ物のプロ」であると伝える。
⇒レファレンスサービスを周知させる。授業で生徒の求める資料提供をする。
- 自分がどのような情報ならば、手に取りやすいのか・理解できるのかを知る取り組みを行う。
⇒まずは自分で情報を得て考え、答えを見つけることが楽しいと知ってもらうイベントを企画する。そこで読書補助具を利用したり様々なメディアに触れる経験をしたりしてもらう。
- 正しい情報を得る方法・誤っている可能性がある情報を見分ける方法について授業や図書委員会のイベントを通じて伝える。
⇒正しい情報の見分け方について司書から説明する。